文教・警察常任委員会資料
平成27年(2015年)9月9日
教育委員会事務局学校教育課
全国高等学校総合文化祭推進室

第３９回全国高等学校総合文化祭「２０１５滋賀　びわこ総文」の開催結果

１　大会の趣旨

高等学校教育の一環として、高等学校生徒に芸術文化活動の場を提供することにより、芸術文化活動への参加意欲を喚起し、創造的な人間育成を図るとともに、芸術文化活動を通じて、全国的、国際的規模での生徒相互の交流・親睦を図る。

２　大会開催期日

平成２７年７月２８日(火)～８月１日(土)　（５日間）

３　会場および日程

会場および日程は、【資料１】のとおりです。

４　参加者数等

大会期間中の参加者数等の概要については、以下のとおりです。

（１）参加者数

参加生徒数　１９，９６６人

（単位：人）

区分		計	内訳		
			県内	県外	海外
生徒	参加（a）	19,966	2,913	17,006	47
	運営（b）	6,937	6,937		
	計（a＋b）A	26,903	9,850	17,006	47
教員等	引率（c）	4,225	616	3,597	12
	運営（d）	1,656	1,656		
	計（c＋d）B	5,881	2,272	3,597	12
合計	（a＋c）	24,191	3,529	20,603	59
	（b＋d）	8,593	8,593		
	計（A＋B）	32,784	12,122	20,603	59

（２）観覧者数

８７，８７８人

（３）参加学校数

区分	計	内訳		
		県内	県外	海外
参加学校	3,492	298	3,191	3

5　お成り

7月27日（月）から29日（水）までの3日間にわたり、秋篠宮殿下並びに佳子内親王殿下のお成りを賜り、総合開会式および5部門の御覧並びに県内事情の御視察をいただきました。

【御日程】

7月27日（月）

午後、琵琶湖博物館を御視察いただいたあと、ピアザ淡海で写真部門の展示を御覧いただきました。

［写真部門御覧］

7月28日（火）

午前、近代美術館で美術・工芸部門の展示を御覧いただきました。

午後には、びわ湖ホールでの総合開会式へ御臨席をいただき、秋篠宮殿下から、おことばを賜りました。また、総合開会式終了後、同ホール内の特別支援学校部門の展示を御覧いただき、さらに、総合開会式に携わった高校生にお声かけをいただきました。

［美術・工芸部門御覧］

［総合開会式　秋篠宮殿下のおことば］

［びわ湖ホールサブロビーでお声かけ］

７月２９日（水）

午前、甲賀市あいこうか市民ホールで郷土芸能部門の演奏を御覧いただいたあと、守山市民ホールで器楽・管弦楽部門の演奏を御覧いただき、帰京されました。

［郷土芸能部門御覧］

［器楽・管弦楽部門御覧］

【その他】

平成１９年の島根大会から始まった全国高等学校総合文化祭における秋篠宮殿下のお成りは、今回の滋賀大会で９回目となりました。

各会場では、御案内や御説明にあたった高校生をはじめ、大会に携わった多くの高校生に励ましやねぎらいのお声かけをいただきました。さらに、会場を訪れた多くの県民に対しても、温かい笑顔でおことばをいただき、大会関係者をはじめ、多くの県民の心に残るお成りとなりました。

6　開催内容（結果）

（1） 大会基本方針

大会基本方針は、【資料２】のとおりです。

（2）総合開会式

７月２８日（火）午後、秋篠宮殿下並びに佳子内親王殿下の御臨席を賜り、びわ湖ホールで開催しました。

総合開会式では、第１部式典に引き続き、第２部交流において海外３か国の生徒による発表および次期開催県である広島県生徒実行委員との交流ステージを繰り広げました。第３部開催県発表では「人と環境」をテーマに構成劇を発表しました。

また、ロビーでは、生徒実行委員による企画や茶道部生徒による呈茶などのおもてなしで、観覧者をお迎えしました。

生徒たちは自分たちの思いを込めた企画を立案し、実現しました。その結果、総合開会式全体を通して滋賀、琵琶湖、環境、人とのつながりの大切さをメッセージとして発信できました。

① 参加・観覧者数

・出演生徒　　４０２人
・運営生徒　　１３９人
・観覧者　　１，２８１人

［代表生徒入場後、文化連盟旗の引継ぎ］

② 第１部式典　13:00～13:55

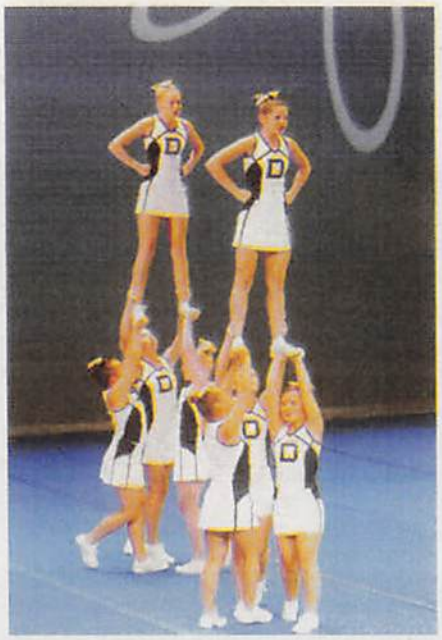
・オープニング　滋賀県紹介映像
・代表生徒入場
・全国高等学校文化連盟旗の引継ぎ
・開会宣言
・国歌斉唱
・全国高文連の歌合唱
・大会会長あいさつ
・文化庁長官あいさつ
・滋賀県知事あいさつ
・秋篠宮殿下おことば
・生徒代表歓迎のことば
・大会イメージソング合唱

③ 第２部交流　13:55～14:30

□国際交流

・生徒実行委員会国際交流委員による海外からの招へい校紹介
・デウィットハイスクール（アメリカ合衆国ミシガン州）チアリーディング

・長沙市第二十一中学（中華人民共和国湖南省）苗族舞踏
・ソウル国際高等学校（大韓民国ソウル特別市）剣舞



［デウィットハイスクール］

［長沙市第二十一中学］

［ソウル国際高等学校］

□二県交流
・次年度開催の広島県生徒実行委員と滋賀県生徒実行委員による交流ステージ

□全体交流
・第２部出演者全員による交流ステージ（よし笛で「琵琶湖周航の歌」を合奏）

［二県交流］

［全体交流］

④ 第３部開催県発表・グランドフィナーレ　14:50～16:00

□開催県発表　構成劇「うみのこ」

総合開会式テーマ「人と環境」を軸に、３２年前にタイムスリップした高校生５人を中心に、ふるさと滋賀、琵琶湖、人とのつながりの大切さをメッセージとし発信しました。

［第３部開催県発表　構成劇「うみのこ」］

□グランドフィナーレ

出演した生徒全員がステージに再登場し、大会イメージソング「ありのままの僕らで」を、大会成功への願いを込めて合唱しました。

［グランドフィナーレ］

（3）パレード

総合開会式開会後の１５時頃から雨が降り始め、雨は１８時過ぎまで断続的に降り続くとの彦根地方気象台からの情報を基に、パレードの中止を決定しました。

【計画】

① 日時

７月２８日（火）　17:00～18：45

② コース

びわ湖ホールを起点とした琵琶湖を臨む湖岸沿いのコース　　約８００ｍ

③ 参加申込状況

７０校（国内６７校、海外３校）、　２，２２５人

④ 救護所

団体受付会場、練習会場、スタート地点付近、コース中間地点、コース終了地点の計５か所に設置

（4）開催部門

大会開催基準規程に定められた１９部門と協賛部門３部門の計２２部門を、県内１３市の会場で開催しました。

① 参加者

生徒　１７，３９０人

② 運営体制

各部門大会の実施に当たっては、生徒実行委員会を組織するなどして、滋賀の魅力発信や記憶に残るおもてなしを踏まえた大会づくりを目指し、交流会の企画・実施や会場装飾など主体的に取り組みました。

その結果、参加者や観覧者の方々から高い評価をいただき、生徒たちにとって貴重な経験となりました。

③ 滋賀の魅力発信

県内各地を巡るフィールドワーク等により、参加・観覧いただいた方々に、琵琶湖をはじめとした自然環境や歴史・文化など、本県の魅力を発信することができました。

また、本県生徒にとっても滋賀の魅力を再認識する絶好の機会となりました。

・新聞部門や自然科学部門では、学習船「うみのこ」や環境学習船「Megumi」に乗船して、琵琶湖のプランクトン観察や水質調査などを実施

・写真部門や文芸部門では、世界遺産比叡山延暦寺や国宝彦根城、石山寺、竹生島などを撮影会や文学散策のコースに設定

・生徒実行委員会（総務委員会）が大津駅周辺マップを作成し、各会場で配布
・開催市の観光協会や商工会等の協力を得て、会場において地元の名産品・特産品販売や観光案内を実施

［自然科学部門　巡検研修］

［写真部門　撮影会］

［書道部門　交流会］

［小倉百人一首かるた部門　対戦］

［特別支援学校部門　ステージ発表］

［茶道部門　茶会］

［将棋部門　対局］

7　国際交流

滋賀県と姉妹県州協定を結んでいるアメリカ合衆国ミシガン州と友好県省協定を結んでいる中華人民共和国湖南省の２か国２校を招へいしました。また、後催県（広島県）が招へいした大韓民国からの訪問団をあわせて、３か国３校の訪問団が来県し、表敬訪問や総合開会式、県内施設訪問、受入れ校での文化体験を通して、県内高校生との交流を深めました。

今回の活動を通して、県州・県省協定によるこれまでの結びつきがさらに深まり、２１世紀の主役となる若い世代の交流を一層促進することができました。

招へい国	アメリカ合衆国	中華人民共和国	大韓民国
招へい校	デウィット ハイスクール	長沙市第２１中学	ソウル国際高等学校
招へい期間	7/22(水)～7/30(木)	7/23(木)～7/30(木)	7/25(土)～7/30(木)
招へい県	滋賀県	滋賀県	広島県（後催県）
受入れ校	米原高等学校	守山高等学校	水口高等学校

［表敬訪問（滋賀県公館）］

［デウィットハイスクール・米原高等学校
浴衣姿で茶道体験］

［長沙市第21中学・守山高等学校
名刺交換会］

［ソウル国際高等学校・水口高等学校
書道体験］

8　生徒実行委員会の組織と活動

高校生の意見を大会の企画・運営に反映し、高校生が主役となって主体的に取り組むよう、県内のすべての学校から生徒実行委員を公募しました。平成２５年７月に生徒実行委員会を設立し、翌年６月には第２期生徒実行委員を加え、「総務委員会」、「総合開会式委員会」、「パレード委員会」、「広報デザイン委員会」、「国際交流委員会」、「記録イベント委員会」の６委員会に分かれて大会の企画・準備・運営の役割を担いました。

また、開催する２２部門においても生徒実行委員会を組織し、各部門大会の企画・運営を行いました。

大会の準備において、いかに滋賀らしいおもてなしができるか、どのような取組みをすれば滋賀の良さを発信できるかについて、各自が真剣に考え、行動しました。

心を込めたあいさつや応対に努め、また、琵琶湖を中心とした滋賀の自然環境、人とのつながりの大切さをメッセージとして発信しました。今回のこの貴重な機会を通して得た経験、友情、自信を、今後の自らの生き方の糧として活かしてくれることを願っています。

［　平成２５年７月１８日委嘱状交付式　と　実行委員会活動の様子　］

大会を終えて、各委員長のことば
～生徒実行委員会解散式（平成27年8月22日(土)）において～

□生徒実行委員会委員長　月館　森（滋賀県立膳所高等学校３年）

「この大会を通じて、粘り強く取り組む力を、たくさんの意見に耳を傾ける力を、様々なことを並行して進める力を、仲間を信じる心を、そして、なにより、かけがえのない仲間を得ることができました。たくさんの経験、そして出会いは、私に将来の夢を与えてくれました。

この先、どんなことがあっても、この５日間、この２年間を思い出し、夢へ向かって頑張っていこうと思います。」

□総務委員会委員長　安田　かず子（滋賀県立彦根工業高等学校３年）

「２年前に自分たちで決めた「記憶に残るおもてなし」を実現するため、活動してきました。一番の成果は、お客様や大会参加者の立場に立ってものごとを考えていく中で、相手の気持ちやスタッフの気持ちが理解できるようになったことです。

また、委員の一人ひとりが臨機応変に動けるようになったことも成果の一つだと考えています。

今後は、県外の方だけでなく、県内の方にも滋賀の良さを知っていただきたいと思うとともに、滋賀の活性化に努めていきたいと思います。」

□総合開会式委員会委員長　坂本　寛弥（滋賀県立膳所高等学校３年）

「全国規模のびわこ総文の企画・運営に、高校生の立場で関わることができたことをうれしく思います。そして観覧していただいた方々に、満足していただけたことが何よりうれしいです。

高校生として運営に携わった経験を、今後の人生の中でぜひ活かしていきたいと思います。

また、先催県から教えていただいたことを基にびわこ総文を創り上げたので、今度は、後催県にびわこ総文で創り上げたものを伝えていきたいと思います。」

□パレード委員会委員長　村上　愛璃（滋賀県立安曇川高等学校３年）

「参加団体や観覧者の皆さんが笑顔でいられるよう、パレード委員は常に笑顔を忘れないよう取り組んできました。残念ながら、雨でパレードは中止になってしまいましたが、最後まで笑顔を忘れず取り組むことができました。

びわこ総文を通して、新たなことにチャレンジすることの大切さや、多くの方と出会い自分が成長すること、目標のために何をすればいいのかを学びました。何より笑顔の素晴らしさに気付くことができました。」

□記録イベント委員会委員長　黒木　花純（滋賀県立栗東高等学校３年）

「大会グッズのデザインや京阪電車ラッピングのデザインなどに取り組んできました。また、各イベントに参加し、びわこ総文の広報にも努めてきました。

この委員会は、裏方で地味な委員会と言われましたが、成果物が後々まで残るので、とてもやりがいのある委員会です。この経験を生かし、未来への扉を開いていきます。」

□国際交流委員会委員長　大芝　佳穂（滋賀県立膳所高等学校３年）

「委員会活動を通して知った責任感や達成感は、私を大きく成長させてくれました。そしてこれらの経験は、今後の人生において大きな糧となるでしょう。これからも夢に向かって、あきらめず頑張っていきたいと思います。

国際交流を通して、海外への興味が湧き、英語の大切さを痛感しました。今後は大学で言語を学び、将来、国際関係で重要な役割を果たす職業に就きたいと思っています。」

□記録イベント委員会委員長　前野　慶太（滋賀県立膳所高等学校３年）

「カウントダウンイベントを通して、大勢の人の前で話すことで、自分が確実に成長していることを感じました。びわこ総文で学んだことは、大学生や社会人になっても活きてくるものだと思います。

普通の高校生活では味わえない貴重な体験と友人との出会いに感謝するとともに、多くの方々に支えられてここまで成長できたことをひしひしと感じる３年間でした。」

9　企業・大学と生徒実行委員会との連携

（1）コンビニエンスストア　ローソンとの連携

ローソンと滋賀県との包括的連携協定の締結を機に、生徒実行委員会とローソンとの連携が実現し、地産の食材を活用した４商品（パン、サンドイッチ、スイーツ、おにぎり）を開発、平成２７年３月２６日（木）～４月１３日（月）の間、近畿一円の約２，２００店舗で販売されました。

販売が好調だった１商品（「近江鶏のチキンカツサンド」）を、大会開催期間に合わせて、再度、滋賀県内で販売いただくなど、大会開催の雰囲気を盛り上げていただきました。

［包括的連携協定締結式］

［びわこ総文パッケージの４商品］

（2）コクヨとの連携

２０１５年がキャンパスノート発売４０周年にあたることなどから、文具メーカーのコクヨと連携し、生徒実行委員会が新製品のノートの企画協力を行ったり、工場見学やヨシ刈りイベントに参加し環境学習に取り組みました。

また、「びわこ総文キャンパスロゴステッカー」他、文具製品を大会参加者へ記念品として提供していただきました。

［ヨシ刈りイベント　西の湖］

［工場見学　コクヨ工業滋賀］

（３）成安造形大学との連携

大学の地域連携推進センターの協力により、ポスターや大会ガイドブック・プログラムの表紙、京阪電車のラッピングなどのデザイン作成についてサポートしていただきました。

専門的な視点でのアドバイスにより、インパクトのある仕上がりとなり、統一感のある印刷物等が出来上がりました。

［京阪ラッピング電車出発式］

［平成２７年度ポスター］

１０　おもてなし

（１）大会参加者用お弁当

全国から集まる大会参加者に「滋賀のおいしいもの」でおもてなしするとともに、滋賀県産品をＰＲするために、平成２６年度に、生徒実行委員会総務委員会で「お弁当プロジェクト」に取り組みました。滋賀の高校生の思いが詰まった５つのテーマのお弁当を日替わりで提供することができました。

7/28(火)	国際交流弁当
7/29(水)	びわこの幸弁当
7/30(木)	うみな弁当
7/31(金)	三県交流弁当
8/ 1(土)	総文うまいもん弁当
（メニューアイデアの提案	４３６件）

［試食審査会（平成 27 年 3 月 22 日）］

（２）総合案内所の設置

総合案内所は、JR と近江鉄道の１２駅に設置しました。JR 大津駅と JR 米原駅には、それぞれ彦根工業高等学校と八幡工業高等学校が制作した案内所ブースを設置し

ました。

案内所では、大会ガイドブック、滋賀県観光ガイド、総文祭特別号新聞や生徒手作りの会場周辺マップを配布しました。さらに、大会参加者や観覧者に、会場までの道のり、シャトルバスの乗り場や出発時刻を案内しました。

［ＪＲ大津駅］

［ＪＲ米原駅］

（３）草花による会場装飾

農業課程のある県内４つの高等学校（湖南農業高等学校、甲南高等学校、八日市南高等学校、長浜農業高等学校）の生徒が半年かけて栽培した草花（プランター1,400基）を総合開会式会場と全ての部門会場に設置しました。プランターを設置したことで、大会会場が華やかになり、おもてなしの気持ちが伝えられました。

［会場周辺］

（４）呈茶

各部門の参加者や観覧者をお迎えするため、茶道部門の協力により、総合開会式会場や美術・工芸部門、放送部門、将棋部門、新聞部門、文芸部門の計６会場に、呈茶スペースを設けました。

観覧者の方々へ呈茶のおもてなしができたことで、大会開催の雰囲気を盛り上げることができました。

（5）協賛団体等ＰＲブースの設置

総合開会式会場において協賛団体等ＰＲブースを設置し、観光団体による本県の観光情報の発信や、業者による大会オリジナルグッズの販売、大学・企業によるＰＲ活動などを行い、大会の盛り上げにつながりました。

［びわこホールロビー］

１１　広報

（1）公募事業

大会テーマや大会マスコットキャラクターをはじめ、大会関係の公募事業を県内の高等学校および特別支援学校高等部の生徒を対象に実施し、大会開催の周知を図りました。

公募時期	平成24年度					平成25年度		平成26年度
公募内容	大会ﾃｰﾏ	大会ﾃｰﾏ 毛筆表現	大会 ﾎﾟｽﾀｰ 原画	大会 ﾏｽｺｯﾄ ｷｬﾗｸﾀｰ (原画)	大会 ｲﾒｰｼﾞ ｿﾝｸﾞ (歌詞)	大会 ﾏｽｺｯﾄ ｷｬﾗｸﾀｰ (愛称)	大会 ｲﾒｰｼﾞ ｿﾝｸﾞ (曲)	大会 参加者用 お弁当ﾒﾆｭｰ
応募点数	649点	69点	34点	204点	61点	829点	45点	436点
公募対象	県内の高等学校および特別支援学校高等部に在籍している生徒							

（2）カウントダウンイベントの開催

生徒実行委員会の企画、運営によるカウントダウンイベントを開催することにより、大会を広く一般県民の方々に対しＰＲしました。

① 大会５００日前イベントの実施

開催日：平成２６年３月１５日（土）

会　場：イオンモール草津

内　容：高校文化部ステージ発表、生徒実行委員企画等

② 大会１年前イベントの実施

開催日：平成２６年７月２３日（水）

会　場：甲賀市あいこうか市民ホール

内　容：国際交流コンサート

（大会１年前の国際交流事業として、７月２１日(月)～２４日(木)の間、大韓民国ソウル特別市の大眞（デジン）女子高等学校を招き、文化交流を実施）

③ 大会３００日前イベントの実施

開催日：平成２６年９月２０日（土）

会　場：ビバシティ彦根

内　容：高校文化部ステージ発表と展示、生徒実行委員企画等

④ 大会２００日前イベントの実施

開催日：平成２７年１月３１日（土）

会　場：近江八幡イオンショッピングセンター

内　容：高校文化部ステージ発表と展示、生徒実行委員企画等

［大会３００日前イベント］

［大会２００日前イベント］

⑤ 大会１００日前イベントの実施

開催日：平成２７年４月１９日（日）

会　場：京阪坂本駅

内　容：京阪ラッピング電車の出発式

⑥ 大会５０日前イベントの実施

開催日：平成２７年６月６日（土）

（展示：６月５日（金）～
６月１７日（水））

場　所：西武ショッピングセンター大津店

内　容：高校文化部活動発表と展示

［大会５０日前イベント］

⑦ 大会１０日前イベントの実施

開催日：平成２７年7月１８日（土）

場　所：JR彦根駅、JR近江八幡駅、JR草津駅、JR石山駅、JR大津京駅

内　容：大会チラシ等の配布

（３）広報媒体への積極的な情報提供

新聞各社およびテレビ局の地元支局に対して、積極的に情報を提供し取材対応することで、生徒実行委員会や高校文化部の活動を数多く取りあげていただき、広く一般県民の方々に大会の周知を図ることができました。

（４）ＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用による情報発信

大会専用の公式ホームページをはじめ、Twitter、Facebook などを活用した、リアルタイムな大会情報の発信に努めました。

１２　危機管理

（１）危機管理委員会の開催およびマニュアルの整備

食品衛生や健康保健などの専門部署の職員で構成する「危機管理委員会」を設置し、「危機管理マニュアル」「救護業務マニュアル」および「緊急時対応マニュアル」を整備し、緊急事態発生時の対応等について徹底を図りました。

（２）食品衛生対策

保健所を通じて宿泊施設や弁当調製施設に対して事前の食品衛生監視・指導を実施したほか、当該施設を対象とした「衛生講習会」を開催するなど、食中毒発生の防止に努めました。

（３）危機管理体制の構築

大会期間中は、危機管理専用の携帯電話を大会本部（事務局）および各部門に配備、緊急事態発生時の情報については、「大会ホームページ」で発信する旨を、事前に参加者へ周知し、夜間専用の電話番号を公開して緊急事態に備えました。

（４）救護所の設置

大会期間中は、各部門会場に救護所を設け、延べ９８人の養護教諭を配置して傷病者の発生に備えました。また、総合開会式・パレードにおいては、６か所に救護所を設け、医師、看護師および救急車を配置しました。

（５）救護所利用者

例年救護所利用者が多いパレードは中止となったものの、救護所利用者は１４０人でした。

項　目			救護所 利用者数	医療機関 受診者数	備　考
生　徒	①県内	参加者	２９人	０人	
		運営ｽﾀｯﾌ	４２人	３人	救急搬送１人：腹痛
	②県外		５１人	１４人	
教　員	③県内		４人	０人	
	④県外		６人	１人	
観覧者（⑤）			８人	２人	救急搬送２人：熱中症、前頭部打撲出血
合計(①+②+③+④+⑤)			１４０人	２０人	

※先催県の救護所利用状況：茨城大会 119 人、長崎大会 221 人、富山大会 156 人

１３　宿泊等サポート室

株式会社ＪＴＢ西日本と近江トラベル株式会社の２社によるＪＶ（共同企業体）を宿泊等業務の協定先として選定して「宿泊等サポート室」を設置し、大会参加者等の宿泊・輸送・弁当の提供業務を行いました。

（１）宿泊

斡旋宿泊数　１４，０３４泊（施設数　県内１０６施設）

（２）輸送

総合開会式会場および最寄り駅から２ｋｍ以上距離がある部門会場へは、無料シャトルバスを運行しました。

また、宿舎から会場へも、事前申込みによる有料バスを運行しました。

１４　実行委員会の組織・主催団体等

（１）実行委員会の組織

組織図は【資料３】のとおりです。

（２）主催　３１団体

文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、滋賀県、滋賀県教育委員会、県内１３市、県内１３市教育委員会、滋賀県高等学校文化連盟

（３）特別後援　２企業

朝日新聞社、読売新聞社

（４）後援　１８団体・企業

全国都道府県教育長協議会、全国高等学校長協会、滋賀県高等学校長協会、
滋賀県特別支援学校長会、滋賀県私立中学高等学校連合会、ＮＨＫ、毎日新聞社、
日本経済新聞社、産経新聞社、共同通信社、時事通信社、中日新聞社、京都新聞、
ＫＢＳ京都、ＢＢＣびわ湖放送、エフエム滋賀、滋賀報知新聞社、ＺＴＶ滋賀放送局

（５）協賛　３５２企業・大学・団体（延べ数）

（６）助成　２団体

１５　成果

（１）高校生主体の企画・運営による、創造力・実践力の育成

県下全域から公募により集まった６２名の生徒実行委員が中心となり、６つの委員会に分かれ高総文祭全体にわたる企画・運営を行いました。各委員会では「記憶に残るおもてなし」を実現すべく検討を重ね、滋賀らしい大会とすることを目標に各部門生徒実行委員会と共に様々に工夫を凝らして取り組んだ結果、創造力溢れる大会となりました。

生徒実行委員や各部門生徒実行委員はじめ高総文祭に関わった全ての高校生が滋賀大会を盛り上げ、「滋賀に来てよかった。また来たい」と思っていただける大会にしようと共通の目標をもって実践してきたことが、大会成功に繋がりました。

（２）高校文化部活動の活性化

大会開催基準規定に定められた１９部門のうち、本県で未設置であった５部門（器楽・管弦楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、弁論、文芸）について、設置に向けての取組みを計画的に進め、大会３年前までには設置することができました。

平成２１年度からは各部門強化のための事業を立ち上げ、指導者派遣や講習会、指導者研修会、強化練習会などを実施してきた結果、各部門の力量が次第に向上し、その活動が年々充実し活発化しました。

（３）友好の懸橋となった大会

全国や海外から参加した高校生が、それぞれの地域で育んできた文化芸術の香りをもって一堂に会し交流を深めた結果、全国的・国際的な友好の輪を広げることができました。

特に、国際交流の一環として、アメリカ合衆国、中華人民共和国、大韓民国の高校生と滋賀の高校生とが文化芸術を通して交流した結果、相互理解が進み、互いに尊重し合う精神の大切さを学ぶことができました。交流内容については綿密な計画を立てて海外各校に協力を求めながら準備を進めたり、生徒国際交流委員会の中で新たに生まれたアイデアを相手国に伝えたりして、直前まで交流会のレベルアップを図った結果、密度の濃い交流となり、人種や国境を越えた確かな友情が育まれました。

（４）滋賀県の魅力と滋賀県の高校生の姿を全国に発信

巡検や取材活動、撮影会、文学散歩等のフィールドワークや生徒交流会等の諸行事を通じ、本県のもつ自然や歴史、文化等の魅力を全国から集った高校生や教職員、観覧者の方々に実感していただくとともに、滋賀の高校生も再認識しました。

また、大会基本方針「豊かな湖　琵琶湖」を中心に据え、総合開会式テーマを「人と環境」とした本大会を通して、本県の高校生がもつパワーと真摯に取り組む姿を全国から来県された皆様方に発信することができました。

（５）経済波及効果

大会期間中は、大きな事故や食中毒もなく、天候不良により中止となったパレード以外は、全ての日程を予定どおり開催することができました。

パレードが中止となったことにより、観覧者数は、例年よりも少なくなりましたが、大会開催による経済波及効果は、１６億８千万円となりました。

１６　今後の取組

大会基本方針の精神を引き継ぎながら、今大会での様々な取組過程で獲得した成果を踏まえ、活発化した高校文化部活動の維持・発展に努めるとともに、本県の自然や歴史、文化等の魅力を活かした芸術文化活動の充実を進めていきます。

【資料１】会場および日程

第39回全国高等学校総合文化祭（滋賀大会）　会場・日程一覧

NO	開催部門	主会場	所在地	実施日程(平成27年7月～8月)				
				28 火	29 水	30 木	31 金	1 土
総合開会式		びわ湖ホール	大津市	○				
パレード		びわ湖ホール横 ～大津市民会館	大津市	○				
1	演　劇	ひこね市文化プラザ	彦根市			○	○	○
2	合　唱	びわ湖ホール	大津市			○		
3	吹奏楽	守山市民ホール	守山市				○	○
4	器楽・管弦楽	守山市民ホール	守山市	○	○			
5	日本音楽	びわ湖ホール	大津市				○	○
6	吟詠剣詩舞	野洲文化ホール	野洲市					○
7	郷土芸能	甲賀市あいこうか市民ホール 甲賀市碧水ホール	甲賀市		○	○	○	
8	マーチングバンド・バトントワリング	野洲市総合体育館	野洲市			○		
9	美術・工芸	県立近代美術館 野洲文化ホール	大津市 野洲市	○ ○	○	○	○	○
10	書　道	県立体育館 県立武道館	大津市	○	○	○	○	○
11	写　真	大津市民会館・公民館 ピアザ淡海	大津市	 ○	○ ○	○ ○	○ ○	 ○
12	放　送	栗東芸術文化会館さきら	栗東市				○	○
13	囲　碁	長浜ロイヤルホテル	長浜市			○	○	
14	将　棋	県立文化産業交流会館	米原市	○	○			
15	弁　論	大津市生涯学習センター	大津市		○	○		
16	小倉百人一首かるた	守山市民体育館	守山市		○	○	○	
17	新　聞	県立文化産業交流会館 米原市公民館	米原市	○	○	○	○	○
18	文　芸	高島市民会館 今津東コミュニティセンター	高島市	○	○	○	○	○
19	自然科学	八日市文化芸術会館 大津市民会館・公民館	東近江市 大津市			○	○	 ○
20	（協賛）特別支援学校	県立男女共同参画センター	近江八幡市		○	○	○	○
21	（協賛）産業	県立琵琶湖博物館	草津市			○	○	○
22	（協賛）茶道	石部文化ホール、善水寺	湖南市		○			

【資料２】

第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会「基本方針」

「豊かな湖　琵琶湖」のもと、古（いにしえ）からの文化と美しい自然に恵まれた滋賀県に、次代を担う高校生が集い、多くの仲間と交流し、創造性に満ちた芸術文化活動を展開します。

地域を結び国の枠を超えて生み出された芸術文化が、人びとの元気と活力の源となることを目指し、未来を拓く文化の祭典を開催します。

「つくる」

万葉の時代から幾多の歌に詠まれ、紫式部や松尾芭蕉などの文人ゆかりの地でもある湖国滋賀は、多くの人びとに愛され、文化を生み出してきた場所でありました。いま、この地を舞台に、高校生の手による、若さと感性あふれる芸術文化を創り出します。

「きわめる」

湖国滋賀の人びとは、祭や芸能などの優れた文化や、美術工芸などの匠の技を大切に受け継いできました。私たちもまた、この地に今も息づく芸術文化の価値を重んじ、それを生かしてより質の高い表現を追究します。

「つなげる」

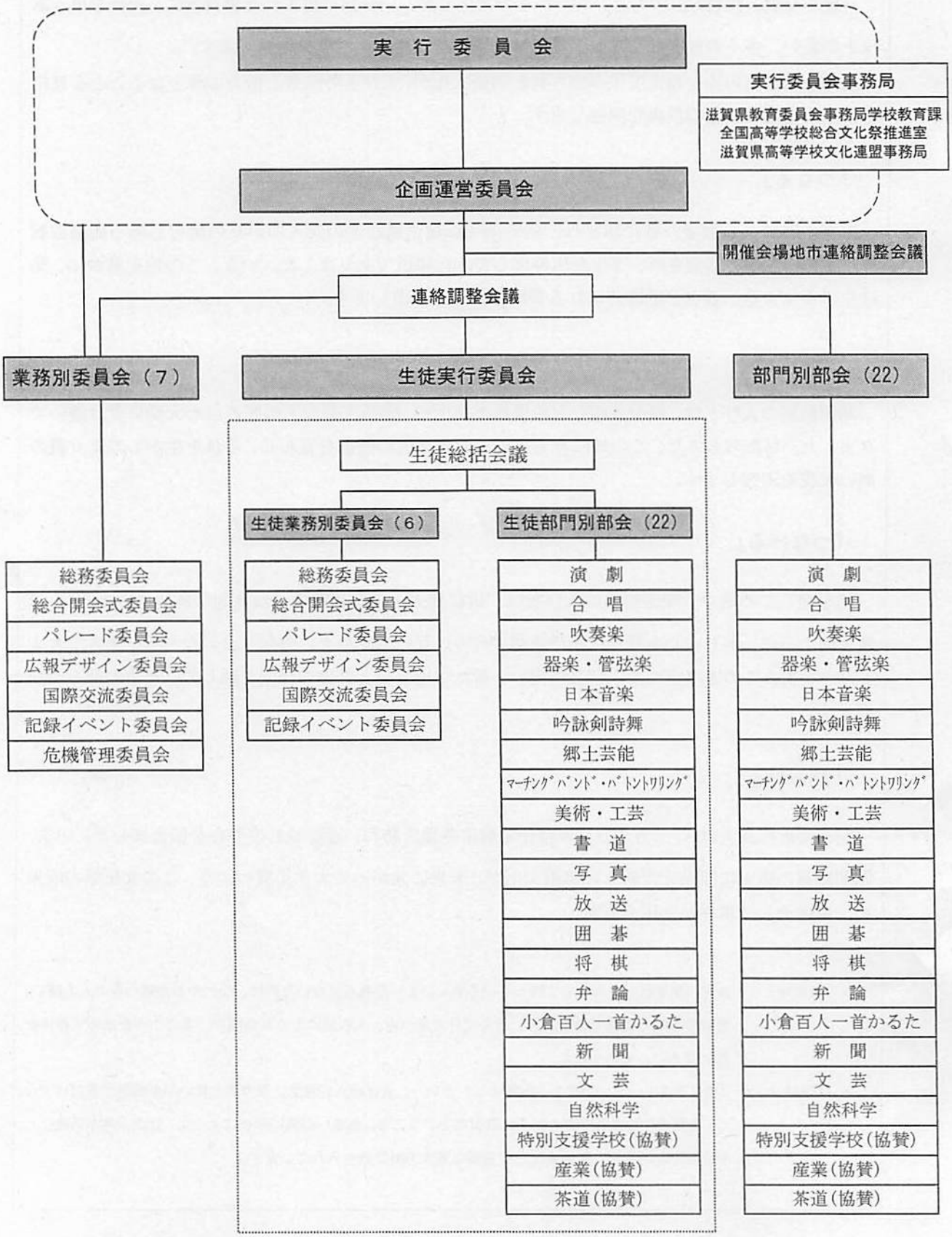
湖を抱くこの地で、湖国滋賀の人びとは、近江聖人・中江藤樹の「致良知（ちりょうち）（良知にいたる）」の教えのように、美しい心を持って相手を思いやり、互いに認め合い尊敬し合いながら、生きてきました。いま、この地に多くの人びとが集い、新たな出会いと文化の交流を通して、友情の絆をつなげます。

「ひろめる」

かつて近江商人は、「三方よし（さんぽう）」の精神を胸に各地を訪ね、近江のものや心を伝えました。いま、湖国滋賀の風土に芽生えた新しい芸術文化が、未来に向かって大きく育つよう、この文化祭の成果を、全国そして世界へと広めます。

＊「致良知」　…良知（生まれながらにして持っている美しい心）を曇らせないために、なごやかな顔つきで人と接し、思いやりある言葉で話しかけ、澄んだ目で見つめ、人の話によく耳を傾け、まごころを込めて相手を思いなさい、という教え。

＊「三方よし」…「売り手よし、買い手よし、世間よし」という、近江商人の理念。売り手と買い手が満足するだけでなく、世間のためにもなるのがよい取引だということ。他者への思いやりによって、社会全体が活性化してほしいという思いを込めてこの言葉を基本方針に取り入れています。

【資料３】 滋賀県実行委員会組織図

第３９回全国高等学校総合文化祭滋賀県実行委員会組織図